

日を煩わなくなつた農耕
時代に入るや否や死の恐
怖を知るようになった
「宗教」が出現したこと、
そのなつてから生産性向
上のための「科学」を創
始して文化の定義など、現
在の文化の余剰の出現
も依つたのである。封
建社会の王侯貴族の所
しは、いた金蒔絵の絢爛
華は、彼らが封ずる社会
の生産活動がよほど活発
になつていないこと、左
にほかならない。まさに
「文化」は過剰の「蕩尽」
なのである。
サヴァラン菓子で有名
なブリア・サヴァランは
名著『美味礼讃』の巻頭
にこう書いてある。「一、
禽獣は食らい、人間は食
べる。教養ある人間は食
初め。食べ方を知らぬ、
どんなものか。食べると、
か言つてみよ。か、いい
どんな人であるか、いい
当ててみよ。か、いい
根・戸部訳『岩波文庫』。
食もまた「文化」である。
ここまでは、長々と「文
化」について論じてきた
のは、他でもない。私たちが
の住むこの山梨県の「文
化」状況はどうなのだろうか
である。問いたかつたから
ある人は、人口当たり
有り余るほど有る「文化
会館（公民館）」「図書館
（学習館）」「博物館（展
示資料館）」「美術館」、
「スポーツ施設」の豊かさ、
他県から帰つてくる

と急に良くなる山梨の道
路など、文化を張る。梨の象
れぞ「胸を張る。口さがない
徴だ」と一方、口さがない
人は、山梨は「文化不毛
県」だ。と反論する。図書館
の数が多し、図書館が、
と「は言わな。」「は、
館」で「やっ。」「は、
シヨマンズばかり。公民館は、
老人ヨク。歌の練習会以外
と、御詠歌の練習会以外
は、ドガ。」「は、
ン。」「は、
ツ。」「は、
だけ。」「は、
しい。」「は、
両者の言い分を足して
2で割ると、箱物と道がこ
の県で蕩尽、あつて、こ
の蕩尽、混同して、こ
れを文化と混同して、こ
の。」「は、
だ。」「は、
梨の文化は、要するに、
言う。」「は、
始的。」「は、
民が作り出した、少し加
りの過剰を生、ほとんども
工し、たい。」「は、
ある。」「は、
ブリア・サヴァランの
問いかけに、
食べられて、
答えられ、
問とせ、
他人の目、
0回目、
どうだろうか。」「は、